

呉医療センターで診療を受けられる皆様へ (リハビリテーション科)

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

① 該当者	院長による実施許可日～2025年2月28日の期間に当院にて嚥下障害と診断され、治療を受けた患者さん			
② 研究課題名	気管切開閉鎖時の舌圧と嚥下機能との関連性について			
③ 実施予定期間	2023年4月～2025年2月			
④ 実施機関	国立病院機構呉医療センター			
⑤ 研究代表者	氏名	山崎 琢磨	所属	呉医療センター リハビリテーション科
⑥ 当院の研究責任者	氏名	山崎 琢磨	所属	呉医療センター リハビリテーション科
⑦ 使用する試料	収集する診療情報は下記の通りです。 気管切開されてから1週間目の最大舌圧(毎週1回)、酸素投与の有無、人工呼吸器の有無 FOIS 嚥下評価、DSS(摂食嚥下障害臨床的重症度分類)、FOIS 嚥下評価、藤島グレード(摂食嚥下能力グレード)、RSST(反復唾液テスト)、WMST(改定水飲みテスト)・FT(フードテスト)、体重・身長、BMI、血液ガス、Alb、TP、CRP、Miller&Jones 分類(痰の評価)、年齢、構音障害の有無、気管切開した日、気管切開閉鎖した日 ※上記診療情報は、研究終了後5年間もしくは、研究結果の公表後3年間のいずれか長い期間まで厳重に保管され、その後適切な方法で破棄されます。 診療情報は当院の研究担当者において保管されます。 ※当院の研究者2名が収集した情報を取り扱います。			
⑧ 目的	気管切開チューブを安全に抜去できるかの評価方法に関する研究データは不足しています。現在、臨床にて気管切開患者に対して嚥下リハビリを実施する機会に多く直面しており、更に閉鎖する場面まで立ち会う機会を多く得ています。今回、気管切開を施行された患者に着目し、気管切開チューブ抜去、閉鎖を安全に施行できる状態について舌圧、嚥下障害の有無を関連付けて調べる事にしました。			
⑨ 方法	前向き、観察研究;①における期間にて嚥下障害と診断されリハビリ処方された患者さんに対し⑦の記載の情報を解析します。			
⑩倫理審査	倫理審査委員会承認日	2023年4月19日		
	院長承認日	2023年4月19日		
⑪公表	個人情報保護のうえ、研究成果を学会や医学論文などに発表することがあります。			
⑫プライバシー	本研究では、名前・住所・電話番号等の個人情報は一切使用しません。			
⑬知的財産権	将来、この研究の成果が得られ、知的財産権が生じる可能性もありますが、その権利は研究者もしくは所属する研究機関に帰属します。			
⑭利益相反	本研究では、利害の衝突は一切生じません。			
⑮問い合わせ	連絡先	中山 智賀	電話	0823-22-3111(代表)
	国立病院機構呉医療センター リハビリテーション科 言語聴覚部門			

呉医療センター院長